

高知港湾・空港整備事務所におけるSDGsの達成に資する取組について

私ども高知港湾・空港整備事務所では、以下の取組をはじめとする各種施策を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する共に、管内の港湾・海岸整備と各種振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



地域経済の持続的成長を支える港湾整備の推進

高知港三里地区は船舶の大型化に対応するため、外洋に面した現在の箇所にて1988年より整備を開始し1998年に一部供用を開始しています。同港は背後の高知市と海外や国内とを結ぶ物流の玄関口であり、主たる貨物である石灰石は国内の鉄鋼生産に欠かせない原料で、地域経済の持続的な発展に寄与しています。現在、港内静穏度の確保に向けて、防波堤(南)の延伸整備を引き続き実施中です。



防波堤(南)据付状況



クルーズ船2隻同時入港



みらいに繋げる海域環境整備の推進

須崎港においては、カーボンニュートラルや海域環境保全の一環として、藻場育成を促す環境共生型消波ブロックを採用しています。2015年からは鉄鋼スラグを活用した藻場造成ユニットを、防波堤の粘り強い構造への改良にて創出された浅場へ設置する取組を実施中です。引き続き、藻場造成と産業副産物の有効利用の検討を進めることで、カーボンニュートラルに資する取組を推進させていきます。



西防波堤基部



東防波堤基部

基部設置状況

コンクリート

水和固化体

設置した試験プレート
上：コンクリート
下：水和固化体
(サイズ)
30cm×50cm×4cm



三重防護事業の推進による安心安全の確保

高知港の立地する高知市は、県全体の約47%の人口が集中し、臨海部周辺には、行政・防災関係機関や国内トップシェアを誇る産業などが多数立地しています。近い将来、来襲が予測されている津波から地域の安全安心を守ると共に、地場産業の持続的成長を確保することを目的として、三重防護の方針の下、海岸保全施設の改良等を高知県と共同で進めています。



③第3ライン
浦戸湾地区
内部護岸等

①第1ライン
第一線防波堤

②第2ライン
湾口地区
津波防波堤、
外縁部堤防等



(整備後)

(整備前)

